

電気料金算定における「燃料費調整」

および「市場価格調整」の仕組み・算出基準

【ポイント】

- ・① 燃料費調整：全エリアにおいて原油・LNG・石炭等の燃料価格変動を反映。東京電力エリアを含め旧一般電気事業者と全く同じ基準（同等）です。
- ・② 市場価格調整：東京電力エリアの高圧電力のみ導入。東京電力の制度構造を踏襲しつつ、「基準単価」等をワタミエナジー独自基準で算出します。

1. 適用エリア別の算定構成

各ご契約エリアおよび電圧区分における燃料費調整、市場価格調整の算定枠組みは以下の通りとなります。

対象エリア	電圧区分	① 燃料費調整	② 市場価格調整
東京電力エリア	高圧	東京電力と同等	ワタミエナジー独自基準 (基準価格・基準単価を独自設定)
	低圧	東京電力と同等	
その他エリア (北海道・中部・ 関西等)	全区分	旧一般電気事業者と同等	

2. 東京電力エリア（高圧）における調整額の算定構造

【東京電力エリア（高圧）：1kWhあたりの燃料費調整等単価】

燃料費調整等単価 = ① 燃料費調整単価（東電と同等） + ② 市場価格調整単価（独自基準）

① 燃料費調整単価（東京電力と同一）

- ・対象要因：原油・LNG・石炭の貿易統計価格
- ・算出基準：東京電力エナジーパートナー(以下、東電)が毎月発表する燃料費調整単価をそのまま適用します。
- ・説明要点：東電と全く同等であるため、東電の燃料公表単価からそのまま把握可能です。

② 市場価格調整単価（独自基準で算出）

- ・対象要因：日本卸電力取引所（JEPX）のスポット市場価格（1か月平均）
- ・算出基準：制度の枠組みは東電と同様ですが、計算に用いる「基準単価」等を独自に定めます。
- ・説明要点：当社の調達実態・特性に応じた独自単価となります。

3. 市場価格調整における「独自基準」の詳細説明

市場価格調整単価は、JEPX 市場価格の変動分を電力量料金に加算（または差引）調整する項目です。算定ロジック（式）は一般的な市場調整制度を踏襲し、パラメータ（数値基準）を自社で設定します。

(1) 市場価格調整単価の算定式

$$\text{市場価格調整単価} = (\text{平均市場価格} - \text{基準価格}) \times \text{基準単価}$$

(2) パラメータと設定基準

項目	東京電力の基準	ワタミエナジーの独自基準
平均市場価格	JEPX エリア価格の 1 か月平均値	JEPX 東京エリアの指定期間平均値を採用（東電と同様の市場指標）
基準価格	東京電力が定める基準市場価格	東京電力が定める基準市場価格
基準単価（独自）	東京電力が定める基準単価（係数）	ワタミエナジーの調達構成比に応じた変動係数を設定

【2026 年 9 月検針日からの適用基準】

2026 年 9 月からの基準価格は 11.6 円（東京電力と同等）、基準単価は 98 銭です。